
菊地正幸さんを追悼する

Memorial Address for Dr. Masayuki KIKUCHI

菊地正幸さんは病氣療養中の所，治療の甲斐なく2003年10月18日ご逝去されました。享年55歳でした。

菊地正幸さんは昭和23年1月岩手県に生まれ，県立水沢高校，東京大学理学部，理学研究科を経て，昭和48年横浜市立大学に助手として採用されました。その後，ノースウエスタン大学，カリフォルニア大学研究員などをされ，昭和58年横浜市立大学助教授，昭和63年には教授に昇進され，平成8年には東京大学地震研究所教授に転任されました。

代表的研究としては，非弾性体におけるクラック伝搬の研究，クラックによる多重散乱モデルの研究，1992年ニカラグア震源過程の研究，東南海・三河地震の震源過程，トルコのゴルチュク・イズミット地震，1968年十勝沖地震，1994年三陸遠か沖地震の震源過程の研究などがあります。特に最近の研究で山中，永井さん達との過去の強震動記録などを用い，巨大地震のアスペリテイの分布に関する研究は，地震発生の見方を大きく変えるものとして特筆すべき研究です。この研究に

よって，1968年，1994年の2つの三陸沖の地震はほぼ同じアスペリテイを共有し，そのアスペリテイに溜まった歪みの一部が巨大地震として解放されたことを明らかにしました。またすべてのプレート境界に満遍なく地震が起きるのではなく，地震を起こしうる部分と起こしにくい部分も有ることを示しました。これによって，日本ばかりでなく，世界の地震予知研究に重要な貢献をされたと考えます。

この一方，横浜市の強震計ネットワークの建設などを積極的に推進されました。大地震が起きるとすぐさま波形を解析し，震源過程を社会に示しておられたのは印象的です。2003年1月には東京大学出版会から『リアルタイム地震学』を上梓され，リアルタイム処理の方向を示されました。

地学雑誌112巻6号の「特集：断層帯の物質科学と地震発生過程」の寄稿が氏の最後の著作となったことは，まことに残念なことです。謹んでご冥福をお祈りします。

(文責 笠原順三)